



朝鮮学校への高校無償化適用と補助金の再開を求めて、朝鮮舞踊の衣装を着てパレードの準備をする舞踊部の女生徒たち。



今月の

写真

写真・文 林 典子

この写真の背景
日本における
「朝鮮学校」の歴史

「ウリハッキョ」と呼ばれる、朝鮮学校。意味は「私たちの学校」。朝鮮半島にルーツをもつ日本に暮らす子供たちが、民族教育や母国語の朝鮮語を学ぶ場として、戦後に設立された「国語講習所」が前身の民族学校で、現在全国に98校ある(2012年時点、幼稚園を除く)。子供たちの国籍は、朝鮮籍と韓国籍がそれぞれ約半数を占めるが日本国籍の子供もいる。授業は外国語以外、すべて朝鮮語で行われている。

Profile はやし のりこ

1983年生まれ。フォト・ジャーナリスト。社会問題や女性の人権問題を中心に取材。2013年フランス世界報道写真祭で金賞を受賞。著書に『フォト・ドキュメンタリー 人間の尊厳』(岩波新書)、写真集『キルギスの誘拐結婚』(日経ナショナルジオグラフィック)など。

朝鮮学校の取材を通して感じた、相手を知り、文化に触れることの大切さ

日朝両国の政治的緊張が報道される中、朝鮮学校に通う子供たちの日常を知りたいと思い、1年ほど前から広島朝鮮学園で取材を始めた。ここでは幼稚園から高等学校にあたる高級部まで約200人が学んでいる。私は今まで在日朝鮮人社会との接点はなかつたが、とにかくあいさつが徹底され、子供たちは「授業をぜひ見てください!」と明るい。日本のファッショントークを読み、AKB48などのアイドルグループのポスターを部屋に貼り、FacebookやLINEで情報交換をするなど、日本の子供たちと変わりはない。だが、ヘイトスピーチなど民族差別を経験し、日本社会での疎外感を感じている子供たちが多くいるのも現実だ。一方的な偏見で相手を見るのではなく、個人として触れ合うこと。これがお互いを理解する一歩に繋がるのではないかと実感した。